

SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com
大阪市中央区谷町 2-5-4 702号 Tel: 06-6946-9505

① TEST (試婚)

「週末婚」と言うのとはちょっと違うかもしれませんが、週末泊まりがけで一人暮らしの彼氏・彼女の部屋へ行くことが今は普通になっているようです。親は許しているわけではありませんが、よほど目に余る行いが無い限り積極的に禁止はしません。で、そのまま結婚ということになるのかと思っていると、いつの間にか子どもが週末も家にいるようになります。本人は何も言いませんから「ああ、つきあうのをやめたのだな？」と勝手に想像するしかありません。

かつては「試婚」と呼ばれる習慣があり、戦後しばらくも残っていました。「家」制度のもと「嫁」が家風に合うかどうか、跡継ぎを生むかどうかなど、婚家が「嫁」をテストして気に入らないと里へ返すというものです。これなどは「嫁」の人格を無視した一方的なやり方でしたが、現代の恋人同士のように結婚に至る前段階で男女平等に相手の実態を把握する機会があることは、間違った結婚を未然に防ぐという意味では有効なのかもしれません。



結婚するしないにかかわらず、現につきあっている相手とこれからもずっとつきあい続けるかどうかは、相手を親に紹介するかどうかということで占えます。

家風とか家格とかいう大層な話ではなく、相手が親の価値観になじむかどうか、親が相手に対して好感を持つかどうかは、子どもにとって気になるころなのでしょう。「うちの親はきっと相手のことを気に入らないだろう」と子どもが判断したら、あえて会わせようとはしません。

親にとって、子どもが泊りがけで出かける相手と顔を合わせたこともない、相手がどんな人でどこに住んでいるかも知らないというのは大変気がかりです。

① 結婚は絶対的な目標ではなくなった

すでに死語と化していますが、昔は「結婚適齢期」なる言葉がありました。特に女性について「一定の年齢に達して結婚しないのはおかしい」という社会の共通認識のようなものです。今や結婚について標準とか普通とかいうものはなくなり、世間の目とか世間体を気にして自分の生き方を決める時代ではありません。「私は私だ！」と自分の信念に基づいて生きる人が多くなりました。

女性の経済力が増し相対的に男性の経済力が昔ほどあてにされない時代ですから、あわてて結婚しなくてもいい、むしろ気に入った相手がみつからなければ結婚しなくてもいいという女性も増えています。

「お互いの立場が対等でない限り、自由や自治は強いものの勝利を意味するだけである。」(二宮周平)



男女平等が不完全な世の中で、「結婚」という世界にはいることが女性にとってハンディ～マイナスとなることが明らかだとしたら、女性がそれを避けようとするのは当然で、ハンディ～マイナスを覚悟の上でなおかつ「結婚」という世界に飛び込むには、「よほどのメリットがなければ」ということになるのでしょう。

結婚しなくてもかまわないという人が増えると子どもの数がますます減って行くだろうこと、また結婚時期が遅くなると親と子どもの年齢差が開き、子育てのピーク時に親の体力が持ちこたえるだろうかということが気になります。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com

親のすねをかじっていた頃、外泊はご法度でした。それでもさまざまに工夫を凝らし、もっともらしい理由をつけてはよく泊まり歩いたものです。どこに？それはヒミツです。外泊の翌日は、ご立腹であろう母親の気分を和らげるために好物のケーキを買って帰り、コーヒーを入れて小一時間おしゃべりします。それで母親は外泊のことなど忘れたようにご機嫌になるのです。